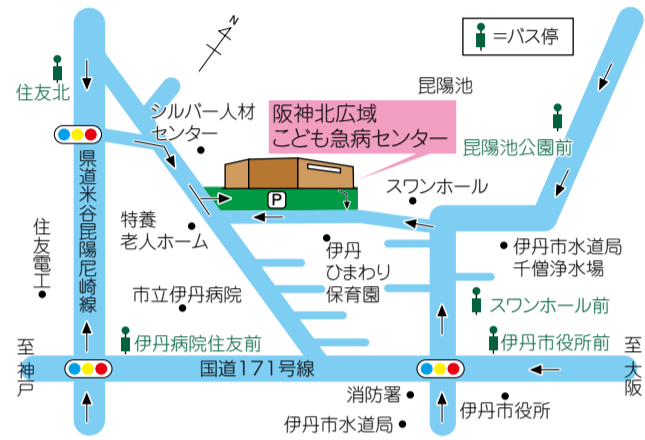


阪神北広域こども急病センター



子どもの急な病気に備えて



上手な受診のためのアドバイス

当センターは安心して子育てができるよう、休日夜間の診療を行っています。開院中はいつでも診察に来ていただけますが、「連れていくべきか」と迷う症状の時もあると思います。



徳井秀朗 事務局長

その1 来院前

また、不要不急の時に体調のよくないお子さんを連れ出すと、本人にとっても親にとっても負担が大きい、という場合もあります。当センターには「電話相談」のシステムがあります。看護師がお子様の症状や様子を電話で伺い、すぐに来院するべきか、かかりつけの病院が開くまで様子を見ていただくかをアドバイスします。お子様の症状が迷った時は、まずは電話相談も活用ください。

電話相談

0770-9981



服部悦子 看護師長

その2 来院する時

現在、服用中の薬があれば、処方箋など薬の情報をお持ちください。お出しする薬の参考になります。「発疹がでた」「血便がでた」という場合、家では出ていた発疹が来院時には消えていたり、血便はトイレなので流してしまうので、発疹や血便を携帯電話やデジタルカメラで撮影してお持ちいただく役に立ちます。お子様の様子をよく知る人以外の方が付き添う時、例えば、直前まで看病はお母さん、来院はお父さんにバトンタッチ、という場合は、「いつからどんな症状か、かかりつけ病院でどんな治療を受けたか、食欲はあるか、水分はとれているか、おなかの調子はいいか、機嫌はいいか」など、症状に合った具体的な様子を詳しく伝えておくといいですね。

いながわ 高橋 祐子 田野 香織

特派員報告

住所：伊丹市昆陽池2丁目10番地
電話：770-9988
駐車場：22台

《診察受付時間》
【平日】午後7時30分～翌朝6時30分
【土曜日】午後2時30分～翌朝6時30分
【日曜・祝日、年末年始】午前8時30分～翌朝6時30分

どうにもあるの？



診察風景

取材のため、町内から車で行って見ました。国道171号線走り、伊丹市役所や消防署が目印になり、よく見える大きな案内看板に導かれて迷わずに到着することができました。

初めてでも、夜間でもわかりやすく到着できるのではないかと、安心してました。また、アクセスの良さに加え、目の前に伊丹病院が連携病院として控えていることも心強いです。

診察内容は？

15歳未満の中学生までの子どもが対象の小児科で、その他の科は、診察できません。また、けが、骨折、やけど、異物の誤飲などには対応できないことがあります。

どんな患者が多い？

6歳未満の子どもの急な発熱が主です。木曜日の午後や日曜日、年末年始が混みやすく、またインフルエンザや感染性胃腸炎などが流行すると混むことが多いです。

有効な医療を目指して

受付のあと、待合室で問診票を記入します。この時、看護師による「トリアージ」があります。

こんな活動も 県民局の委託事業

平成23年度より、子育てサポート「りんご」「いちご」にセンターの看護師を派遣して、季節に流行する病気などのテーマで年に数回、「ミニ講座」を開催されています。10月には「子どもの救急蘇生法」が行われました。毎回、子どもの健康やホームケアについて看護師に個別相談できる時間があり、好評です。

ご協力お願いします

トリアージが行われるため、来院時には必ず子どもを連れて行きましょう。また、トリアージで緊急度が高いと判断された子どもを優先するため、診察の順番が入れ替わることがあります。

編集後記

インフルエンザが流行する時期です。服部看護師長のお話で「うがい、手洗い、ワクチン接種、出席停止期間を守るなど基本を大切に」とのことです。年末も近づき、家族が健康だといいですね。もし子どもたちが体調を崩しても、大事に至らず早く元気になって欲しいという思いを込めて、今月の特派員報告をお送りします。

いながわ 健康・医療相談ほっとライン24

24時間年中無休 健康・医療相談 24時間 急々ゴー

0120-024-995

通話料無料

《利用方法》名前と年齢を告げて利用してください。

《こちらでもご利用ください》



年中無休の24時間利用できる無料の医療相談電話で、大人から子どもまで、何科の相談でもできます。症状に余裕がありそうな時は、これを利用するのも一つの手です。